

令和3年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和3年9月3日(金) 午後7時30分 開会 午後8時30分 閉会
場所	ZOOM会議
出席者氏名	大木教久委員長、佐藤崇委員、加納健司委員、山口哲也委員、小笹貴夫委員、菅原一朗委員、大久保敦子委員、佐藤貴之委員 事務局(望月病院長、藤浪副院長、栗山中央診療部長、益原診療部長、佐藤診療部長、山岡看護部長、坂本患者支援センター所長、岩澤事務局長、岡野がん相談専従看護師、小川病院経営企画課長、内田医事課長、猪瀬医事課副主査)
資料	・ 地域医療支援委員会次第 ・ 資料1-1 紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-2 診療科別紹介率・逆紹介率 ・ 資料1-3 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 ・ 資料1-4 予約検査の件数表 ・ 資料1-5 患者支援センター相談実績 ・ 資料1-6 地域医療機関と連携した研修会等実績 ・ 資料1-7 登録医救急診察専用回線集計表 ・ 資料1-8 循環器HOT LINE集計表 ・ 資料2 がん相談支援センター実績報告 ・ 資料3-1 医療機関別救急車搬送患者受け入れ状況 ・ 資料3-2 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

<午後7時30分 開会>

○事務局（坂本患者支援センター所長）

皆様こんばんは。委員の皆様におかれましてはお忙しいところ茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催ができず、約1年半ぶりの対面での開催となりました。昨年度から新しい委員となりました佐藤クリニックの佐藤先生、佐藤眼科の佐藤先生、山本先生よろしくお願いいたします。本日松井先生から欠席の連絡をいただいております。

それでは、ただいまより令和3年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開催いたします。委員数10名に対しまして、本日は今現在、7名の委員にご出席いただいておりますので、委員会が成立いたしますことをご報告いたします。これより先の議事進行につきましては大木委員長にお願いいたします。大木委員長、よろしくお願いいたします。

○大木委員長

円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。さて、当委員会では会議録の作成にあたり委員の署名が必要となっております。本日の会議の会議録署名委員1名は山口委員にお願いいたいと思います。山口委員、よろしくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題（1）の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（患者支援センター坂本所長）

それでは、令和3年4月から6月の患者支援センター業務実績について、坂本より説明させていただきます。資料の画面共有をさせていただきます。

資料1-1をご覧ください。令和3年度の紹介率・逆紹介率の表となります。令和3年4月から6月の紹介率の平均は、83.6%、逆紹介率の平均は、77.6%です。お配りした資料には平均率の入力が抜けてしまいましたので、画面の資料をご確認下さい。令和2年度の年平均と比較して、紹介率は3.8%、逆紹介率は1.5%共に増加しています。地域医療支援病院の承認要件である 紹介率65%・逆紹介率40%以上の基準を満たしております。

資料1-2をご覧ください。令和3年6月と、同年4月から6月の累計 診療科別 紹介率・逆紹介率の表です。4月から6月の累計で見ますと、紹介率は、腎臓内科・循環器内科・放射線診断科の順に、また逆紹介率は、腎臓内科・循環器内科・呼吸器外科の順に高くなっています。ここ例年腎臓内科が紹介・逆紹介ともに多い傾向はつづいております。

資料1-3をご覧ください。紹介元・逆紹介先 医療機関一覧です。紹介元は、医療機関名と紹介患者数、その内の検査件数を表しています。紹介元医療機関は、藤川整形外科・やまもと内科クリニック・大木医院の順に、逆紹介先医療機関も、やまもと内科クリニック・藤川整形外科・大木医院の順に多くなっています。

資料1-4をご覧ください。予約検査の件数表です。令和3年4月から6月の実績とな

ります。前年比の 25%に達しているかがひとつの目安となります。25%を越えているものは、MRI・頸動脈エコー・ホルダーECG・筋電図となっています。昨年度の4月から6月は緊急事態宣言による検査等の予約制限をしていたため比較は難しい面がありますが、昨年度に引き続きMRIの需要は高い傾向が続いております。表にはありませんが、月2回の土曜日の予約状況につきましては、CTおよびエコー検査を合わせて、月平均10件のご紹介をいただいております。昨年度の平均比較では2.6件増加しています。

資料1-5をご覧ください。令和3年4月から6月の月別の相談延べ件数表です。相談には、看護師と社会福祉士が対応しています。相談対応件数は3467件であり、相談内容の多い項目は例年と大きな変化はなく、在宅への退院相談が最も多く、次に転院への退院相談、続いて看護相談の順となっています。高齢化、独居、認知症、経済的問題などから退院調整を必要とする方が増加しています。

資料1-6をご覧ください。令和3年4月から6月までの 地域医療機関と連携し開催した研修会等の実績です。6月末まで5回開催いたしました。内訳は、小児科3回、整形外科1回、内科・外科1回となっています。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で、内科・外科医会症例検討会は開催を中止していましたが、今年度は開催できています。また、毎月開催している小児医療セミナーは、時間短縮し座席の間隔を開けるなどの感染対策を行い開催しております。今後については、状況を見て開催していく予定です。

資料1-7をご覧ください。令和3年4月から6月の「登録医救急診察回線」の集計表となります。紹介数合計は79件、そのうち入院が32件で約40%が入院となっており、入院につながる患者さんのご紹介を多くいただいております。科別紹介数では、小児科が最も多く、続いて内科一般、消化器内科の順になっています。入院となった科別でも小児科が最も多くなっています。月別の件数では、6月に小児科の紹介数が17件と増加しています。これはRSウイルス感染症の患者さんが急増したことが要因と考えられます。救急回線の入電時間は午前中のピークが10時台で、午後のピークが15時~16時台となっています。受診の結果について、当日または翌日にはご一報として電話にて報告するよう努めています。時に医師におつなぎするのにお待たせするケースもありますので、可能な限り速やかにおつなぎできるよう努めて参ります。

資料1-8をご覧ください。令和3年4月から6月の 循環器HOT LINEの実績表となります。相談件数の24件で、その全てが受診となっています。来院方法は救急車が5件、救急車以外が19件で、そのうち入院が7件となっており、約半数が入院となっています。尚、7月中旬より当院の事情によりHOT LINEを休止しておりますが、体制が整いましたら再開させていただきますので宜しくお願いいたします。

地域医療支援委員会についてですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせていただきました。今年度は、当初 集合研修を予定していましたが、感染症の拡大を受けて、書面による研修会を実施することとなりました。内容としては、皮膚排泄認定看護師を講師として、事前に訪問看護ステーションおよび地域包括支援センターよりアンケートをとり、要望にあったプレゼン資料を作成し配布することを進めています。今年度は、後期に2回目の開催を予定しています。

実績の報告は以上となります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（１）について委員の皆様からご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ご意見、ご質問のある方は、ミュートの解除をして発現して下さい。

○大木委員長

循環器のHOT LINEが今休止状態になっていますが、院内の体制というか、循環器の先生方が救急ホットラインに中々出られないような体制にあるということでしょうか？

○事務局（患者支援センター坂本所長）

人数の体制が今ちょっと変わりました、ホットラインの対応が難しい状況になっております。

○大木委員長

引き続き循環器自体の入院は受け付けてもらえる、救急は受けてくれるということで、ホットライン自体は休止しているけれども、通常の依頼であれば良いということでしょうか？

○事務局（患者支援センター坂本所長）

救急回線の方ではお受けできるようにしております。院長から追加で。

○事務局（望月病院長）

循環器の方はホットラインが非常に活発になってきたところで、こういう事態になってしまい大変申し訳なく思っております。これは今、坂本の方から話がありましたけれども、循環器内科の常勤のスタッフがいくつかの理由があって、次々とマンパワーが落ちてしまっている状態になってしましまして。それを市大の方から非常勤の方で補っているのですが、外来診療中心としたものはある程度良いですが、入院となるとスタッフが大変となっているということで。夜間休日の緊急に対応する力がちょっと落ちていてですね。また近いうちに部長の中戸川の方から医師会の先生方とか近隣の方に、その状況を通達することになると思います。

ホットラインは非常に良い考えだと思いますので、またスタッフがそろえばできるだけ早く再開したいと思っています。またフルのスタッフに戻るのがいつ頃になるのか、まだ見えない。来年度には大丈夫だと思うんですけど、その途中である程度復活できると思うのですが、まだ現段階ではわからないので、その都度また情報を提供していきたいと思っています。

この通常のラインを使って連絡をしていただくのは一向に構わないと思っていますので、その辺はご配慮をお願いします。以上です。

○大木委員長

他に質問はございますか。なければ議題（１）は終了したいと思いますですが、いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（１）は以上をもちまして終了といたします。次に議題（２）のがん相談支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（岡野がん相談専従看護師）

がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師の岡野です。よろしくお願ひします。それでは令和３年４月から６月までの業務実績について説明いたします。

資料２をご連絡下さい。相談件数は、延べ３２２件です。支援方法は対面相談が１９９件、電話相談は１２３件です。前年度と比較し２７件増加しています。患者さん自身からの相談が増えた結果といえます。相談依頼ルートは、患者さん自身が一番多く１１３件、次にご家族が１０６件、医師からの依頼が５７件、看護師よりの依頼が１３件ありました。次に相談内容の内訳は、がんの治療について１０２件、症状・副作用・後遺症の相談が８９件、在宅医療が９１件、ホスピス・緩和ケアが４５件でした。前年度に引きつづき、在宅医療・ホスピス・緩和ケアの相談が増加しています。その要因は、医師からの患者への情報提供、在宅医療・ホスピス・緩和ケアなどの依頼の件数が増えたことと思われます。今後も引きつづき、他職種にがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえるよう周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○大木委員長

説明が終わりました。議題（２）について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員長

特に質問はないようですね。特に質問がなければ議題（２）は終了したいと思いますですが、いかがでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（２）は以上をもちまして終了いたします。次に議題（３）の救急搬送状況について事務局より説明をお願いします。

○事務局（内田医事課長）

それでは、医事課内田よりご説明させていただきます。資料は３－１でございます。上段の表をご覧ください。こちらは、令和３年度４月から６月までの茅ヶ崎市消防の搬送件数を搬送先医療機関別に月ごとに集計したものでございます。一番右側平均の欄でございますが、平均で、月８６６件のうち３０５件、割合は３５．２％が市立病院に搬送されている状況となっております。次に湘南藤沢徳洲会病院が２３７件２７．３％、湘南東部病

院14.9%、茅ヶ崎徳洲会病院の12.5%の順になっております。なお、市立病院への搬送割合につきましては、令和2年度と比較しますと2ポイントの減少となっております。今後におきましては、目標値でございます40%を超えるような取り組みを引き続き行ってまいりたいと思っております。中段の表につきましては、同様に寒川町消防の搬送件数を集計したものでございます。月平均149件のうち23件、13.4%が市立病院に搬送されており、市立病院は湘南東部病院、湘南藤沢徳洲会病院、に次いで3番目となっております。

下段の表につきましては、診療科別に救急車搬送件数を表したものでございます。内容については後ほどご覧いただければと思います。

次に資料3-2をご覧ください。こちらは、令和3年度の4月6月までの茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数を地区別に分類したものでございます。一番下の合計件数915件のうち、茅ヶ崎地区からは260件で市立病院に運ばれた患者の内では占める割合は28.4%となっております。以下、鶴嶺地区からは288件で31.5%、松林地区からは329件で36.0%、小出地区からは37件で4.0%、その他寒川町等からは1件で0.1%となっております。また、各地区の搬送件数における市立病院への搬送件数の割合は、茅ヶ崎地区で33.4%、鶴嶺地区36.3%、松林地区36.7%、小出地区30.6%となっております。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○大木委員長

説明が終わりました。議題(3)について委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○菅原委員

今コロナで病院が大変なんだろうということで、今の病院の病床の状況は、どんな状況なのかを聞かせてもらいたいと思っているのですが、よろしくお願いいたします。

○事務局(藤浪副院長)

藤浪が答えます。皆さんご存じのように、コロナ第5波が急激な波が来て、コロナ患者をたくさん受け入れなければいけないということで、前から3東病棟をコロナ病棟という形で使っていたのですが、ここで患者が増えて看護要員が。中等症Ⅱと言っても、酸素吸って挿管間近の患者さんもたくさんいてかなり手がかかるので、ここに看護スタッフを送るために8月の中旬から3西病棟を閉めて、そこの看護スタッフを3東病棟に送っている。だから今、2病棟閉めている状態です。更に8月は、神奈川県でも3ヶ月待てる不急の入院を抑制しろということで、いわゆる良性疾患の入院を減らせという形でやっております。それ以外の、3階以外の、4・5・6階に関しても全部開けているというわけではなくて、そこの看護スタッフもコロナの応援という形で回しておりますので、病床はかなり、多分100くらいは減らしている、詳しい数は言えませんが、かなり入院患者さんを減らしていて、ギリギリの状態で行っているということでもあります。第5波が収まってくれば、もう少し余裕がもてるかな、というところなので、もう数週間は様子を見てみないとわからない状況です。以上です。

○菅原委員

ありがとうございました。状況的には本当に今厳しい状況だと思うんですけど、医師会の方でも、4・50代以下のワクチンを各施設で頑張っているところですが、ワクチンの量が不足気味になっていまして、各診療所でもあと20バイアルくらいで終了な感じなんですよね。なので、その辺のところはちょっと悔しいというか。皆さん、一生懸命やろうと思っている状況なのに、そのワクチン自体が潤沢に来ていないのが現状です。おそらく30代～50代がある程度ワクチンの充足をすれば、病床の方も逼迫する状況が大分減ってくるのかなと思っているんですけど。今、市内のワクチンの現状はそんな感じなんです。幸いうち、ディープフリーザーがありますので、ある程度のワクチンを他の先生方にもお配りしている状況で、頑張ってもらって皆さんで分担して打ってもらえるようにしています。国が「10月くらいまでに」というようなことを言っていますが、おそらくワクチンの供給量と打てるスピードは、10月末までにはなかなか難しいかなという印象があります。とにかく、私たちはワクチンを希望の人になるべく早くに打てるように頑張りたいと思いますので、先生方もどうか。

この間、富田先生からお話を伺ったんですけど、至誠堂医院の呼吸器の方を専門になさっていますけど、保健所からの依頼の重症の状況の人たちが相当外来にお見えになっているようで。今後、これをどうしていくのかということや相談の一つになっていくのかなと仰っていましたので、そこのところもよろしくお願ひします。以上です。

○事務局（藤浪副院長）

ありがとうございます。

○大木委員長

他にございますか。

○山口委員

すいません。ちょっとよろしいでしょうか。

○大木委員長

はいどうぞ。

○山口委員

病床に関して現状質問なんです。10代の感染者が増えてきていて、これから医師会でも自宅療養を我々でカバーしていくという話が出ているんですけど、10代あるいは10歳以下の小児が悪化した時の病床というのは3東以外にもキープされているんでしょうか？

○事務局（藤浪副院長）

コロナの小児はですね。神奈川県で小児のネットワークというのを作ってしまして、こ

の地域は藤沢市民病院が中心になって受けるという形になっています。ですから基本的に茅ヶ崎市立病院に小児専門のコロナ病床というのは作っていない状況です。今の状況だと、入院する小児ってそんなにいないので、藤沢市民病院だけで足りている状況ではあります。そこが満杯になればうちでも受けざるを得ない状況になると思います。そのときは普通のコロナ病床に入るといった形になると思います。

○山口委員

ありがとうございます。

○大木委員長

その他にございますか。私のところでは在宅患者、高齢者が多いんですけど、先日も市立病院から退院した高齢者を在宅で診だしているんですが、なるべく在宅で入院させない状況でと家族とは話をしています。つまり在宅で看取る方向、または在宅でなんとか肺炎とか誤嚥性肺炎を治療していこうということでご家族とお話して、そこは大分うまくいっているかなと思います。なるべくこういった時期には、患者さんの家族自体も「入院すると面会ができないので」ということでなるべく在宅を希望する方が多くなっています。当然、看取りの患者さんも。在宅を多く診ている先生は多く看取っているんじゃないかなという状況です。なるべく茅ヶ崎医師会としては市立病院に負担をかけないということで、どうしても緊急入院が必要な症例だけをピックアップしながらお願いしている状況です。

○事務局（藤浪副院長）

ありがとうございます。状況が変わればまた皆さんにご連絡したいと思いますので、今状況が一番厳しい時期なので、すみませんがよろしくお願いします。

○大木委員長

他にありますでしょうか。なければ議題（3）は終了したいと思いますが、いかだでしょうか。

○大木委員長

異議なしとのことなので、議題（3）は以上をもまして終了いたします。次に議題（4）のその他について、委員の皆様、事務局から何かございますか。

○事務局（患者支援センター坂本所長）

今年度の取り組みとして、更なる病診連携をはかるために8月に診療所のみなさまへアンケート調査を実施させていただきました。ご多忙の中、ご協力ありがとうございました。今後、集計・分析を行ったうえでみなさまに結果をご報告させていただく予定であります。よろしくお願いたします。

○大木委員長

他に委員の方からご質問、ご提案ございますか。

○小笹委員

コロナ禍の中で市立病院の先生方、お疲れさまでございます。こういう状況下で、病院として開業医との連携でこういう要望があるとか、そういうことはあるんでしょうか？

○事務局（望月病院長）

連携の話になるとどうしてもコロナの話になってしまうと思うんですが、爆発的な増加が一週間くらい前まで続いていてですね。実は、神奈川県は人口あたりの病床数がもともと少なく、特にこの湘南東部地区というのはもともと少なく、県の中でもコロナの病床数が一番薄いところなんです。さらに湘南東部地区の中でも、コロナを受け入れるところが、藤沢市民病院とか湘南藤沢徳洲会は数が多いし、ここにきてそれ以外の病院がコロナの受け入れを開始したと。これは国の方から特措法に基づいて、東京はもう法律的にやれと言っているんです。神奈川はそこまで言っていないですけど、門戸を開けということは県の方からも来ているし、県の病院協会の方からも県下の病院に言っている。こういう中で、先週、医師会と保健所と病院の会議があって、医師会の方も在宅のコロナ患者のケアにあたると。もちろん全部じゃなくて、保健所が在宅の診て欲しい患者さんを、かかりつけがいるところはその先生に、かかりつけがない人は保健所の方からやってくれる先生にぐるぐる回していくという風にやると聞いています。その際に、富田先生のところは始めていると思うんですが、ステロイドの在宅投与までということで、これから医師会の先生方の中でも出てくると思うんですけど、その辺をうまい具合に対応していただけるといいなと思っています。

ただ、茅ヶ崎市内は残念ながら実質的にコロナの受け入れができるところがうちだけです。他の、湘南東部病院とか茅ヶ崎中央病院とか徳洲会病院の方へも、上の方からお願いをしているそうなんですけれど、実質的にそれができない状態になっているので。コロナ関係の救急車も、茅ヶ崎市内では、うちか湘南藤沢徳洲会のどちらかへ回っていると思うんですね。在宅でこれからコロナの患者さんを診ていただけるようになった時に、これまでの感じから、入院だという患者さんを我慢して在宅で診ていただかなくてはならないケースがまだまだ続くと思うんですが、根気よく続けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○大木委員長

他に何かございます。

○事務局（栗山中央診療部長）

今現在このご時世であるんですが、当院の本館2階を工事しております。新内視鏡センターがいよいよ10月4日にオープンする予定です。新しい内視鏡検査室3部屋と、透視下内視鏡室。これは年明け稼働予定なんですけどそちらは1部屋。あとはリカバリー室が10床。ということで、今までお待たせしておりました鎮静して内視鏡をやるという患者さんも今後はお待たせすることなく検査することができるかなと考えております。今まで以上に内視鏡診療を積極的に行っていこうと思いますので、今後患者さんのご紹介の程、よ

ろしくお願いいたします。以上です。

○大木委員長

はい、ありがとうございます。他に何かございますか。

○大木委員長

他に質問はございませんでしょうか。先ほど菅原先生が仰ったとおり、9月6日からPCRの輪番制が始まります。

それと、今後在宅で、なるべく市立病院の負担を取っていくことを医師会で話を進めていますけれども、自宅でコロナの患者さんを診ていく上で、当初は訪問看護ステーションを入れればいねと話したんですけど、地元の訪問看護ステーションのキャパが在宅の患者さんでほぼいっぱいなんです。今回は訪問看護ステーションを断念せざるを得ないんじゃないかという話で。なんとかリモート、または電話等で問診をしながら在宅の患者さんを診て、一部は専門の先生に在宅でのコロナの治療をやってくれないかということ会員に呼びかけているという状況です。来週辺りに整うんじゃないかと事務局から聞いております。そういった形で、地域の医療を市立病院と医師会の方で共同で守っていくということが今非常に問われていると思いますので。なかなか他の病院が協力してくれないってことは、僕らも他の病院に期待はしていないので、この状況で医師会が出来ることをやっていきたいなと思います。

僕の方からは以上ですけれども、事務局の方はよろしいでしょうか？

○事務局（望月病院長）

お聞きしたいことがあります。コロナの在宅はともかくとして、これまでずっと言われてきたオンライン診療とか、薬剤もコロナになって患者さんへの薬の届け方ですとか、なにか変わった対応をしているのかどうかを、もしわかれば教えていただきたいと思うのですが。

○大木委員長

薬剤に関しては、大分方法を考えていて、薬を届ける場合にはポストに投函するであるとか、なるべく接触を避けるということで、薬剤師会ともお話が強調されているんじゃないかなという形で。特に、在宅での薬物の投与ということに関しては、大分医師会と話を詰めているという話は聞いております。それ以外に、僕は今医師会の幹部じゃないんでなかなかタイムリーな情報がないんですけれども。

○菅原委員

僕も理事ではないですが、僕も薬剤指導を依頼している患者さんが結構いて、なかなか薬を取りに行けない患者さんに持って行ってもらっているんですが、行けませんと言われてないので、それぞれ薬局が工夫をしながらやっていただいている、薬が届かないという状況は今のところないというのが現状かと。

○小笹委員

私のところも今のところ、お薬とかで困っていることはありません。現状、私はオンライン診療をまだやっていませんが、9月6日からコロナのPCR検査を含めた診療がどういう形になるかによって少し導入していくことを考えないといけないだろうなという状況です。

○大木委員長

手元にないですが、オンラインを会員がどのくらいやっているかという状況が僕のところには。事務局は持っているのかもしれませんが、そこはPCR等をやる先生方のところは調べているのかなと思います。実際、どれだけの会員の先生がオンライン診療ができるのかってところは、僕も医師会に情報を聞きながら。今回はオンラインと電話というようなところですかね。そういったところでやっていこうと聞いております。

○菅原委員

もう一点だけいいですか。在宅の方で、皆さん頑張ってやっているんですけど、去年一昨年くらいから、それぞれの先生のところで在宅の患者さんが増えているんだと思います。僕のところでも50を超えています。この上に在宅のコロナの患者さんを診るとすると、やり方をなんともわからない。実際にどの程度のフォローアップをするのか。大丈夫かどうかを聞くのだけ僕らがやるとなると、相当数が増えていくと思うんです。なかなか難しいところがあるのかなと思って、やり方を悩んでいるところなんです。また、その辺のところは、こっちで診て欲しいという状況で何かしらの指示をいただきたい。呼吸器の専門じゃなくても、こうだったらこうみたいなのがあれば、非常にありがたいかなということがあるので。その辺のところ、多分呼吸器の先生にご相談が行くと思いますが、3分クッキング的な感じで、呼吸器の理解がなくてもここくらいまでならできるといえることがあればありがたいと思っておりますので。是非、またご協力をおねがいしたいと思います。

○大木委員長

副会長の鈴木先生辺りがそこのところをよくお考えになっていると思いますので、どのように実際に動くかということは来週緊急理事会を開くと聞いていますので、その理事会の中で決定事項が大分でてくるんだらうと思います。PCRセンターが9月6日に動き出して、来週の理事会でかなり決定事項がでてくるんじゃないかと、事務局から聞いております。

○大木委員長

他にございますか。非常に地域医療が大変な状況でございますが、こういったウェブ会議で生の情報が交換出来て、非常に良かったですし、市立病院の今の状況を藤浪先生や栗山先生からご説明いただいたので、非常に理解できたかなという風なことで。医師会員たちに我々が口で伝えていくことも重要なのかなと思いますので、各先生方、佐藤先生、加納先生、各分野から来られていますので、是非この情報を仲間の先生にお伝えしたいと思います。

思います。これから注目される小児科のコロナの患者のところへ山口先生中心にやっていただきたいと思いますので、各科の先生が医師会の中で、是非情報を伝えていって欲しいなと思います。

○大久保委員

8月31日に医師会の先生とご相談させていただきまして、薬剤の患者様にお渡しする方法などについて検討させていただいております。PCR検査の際は、検査されている病院にお届けするとか、そんな形でも対応できると思っております。是非、近隣の薬局の方にもご相談いただきつつ、私達の方からも近隣の診療所の先生にご相談させていただいて、患者様のお薬がしっかり届くように対応して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○大木委員長

特になければ、本日の議題はすべて終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。以上をもちいまして、令和3年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。

○事務局（患者支援センター坂本所長）

今回は12月の第一金曜日を予定しておりますので、もしご都合が悪いようでしたら、また市立病院の患者支援センターにご連絡いただければと思います。よろしくお願い致します。

委員長署名 _____

委員署名 _____